

兵庫教育大学 教職大学院

『教育実践高度化専攻』

(教育方法・生徒指導マネジメントコース)

実 習 基 本 計 画

令和5年4月

目

次

実習生としての心得

実習の基本計画（教育方法・生徒指導マネジメントコース）

1	実習の目的	1
2	実習科目	1
3	実習校	2
4	科目別の実習内容，指導体制，評価方法等	2
5	実習資料の様式	6
6	カリキュラム配置モデル	21

実習生としての心得

【 実習に対して 】

1. 身だしなみと言動

- ・ 服装や頭髪は、幼児、児童・生徒への影響を考え、教師をめざす実習生らしいものとする。
- ・ 乱暴な言葉使いや粗暴な態度はしないこと。

2. 意欲と態度

- ・ 実習期間中は、熱意をもって意欲的な態度で取り組むこと。

3. 専念

- ・ 実習期間中は実習に専念し、部活動やアルバイト等を行わないこと。

4. 指導教員からの指導や助言

- ・ 実習先の指導教員からの指導や助言、忠告に対しては、快くこれを受け入れること。

5. 健康管理

- ・ 健康には十分留意し、節度ある生活を行うこと。

6. 時間管理

- ・ 出勤時刻や提出物の期限等は、必ず厳守すること。

7. 守秘義務

- ・ 実習を通じて知り得た情報は、SNSを含め絶対に外部に漏らさないこと。

8. 喫煙

- ・ 実習先では喫煙しないこと。

【幼児、児童・生徒に対して】

1. 態度

- ・ 幼児、児童・生徒の前では実習生間の私的な会話を慎み、絶えず教育者としての態度で接すること。

2. 私的な交流

- ・ 幼児、児童・生徒との私的な交流（SNS、電話、メール、自宅への訪問、物品等の受け渡し等）はしないこと。

3. 体罰や暴言

- ・ 幼児、児童・生徒への体罰や暴言は絶対にしないこと。

4. 健康管理や安全指導

- ・ 幼児、児童・生徒への健康管理や安全指導に特に留意すること。

5. 実習先以外での接触

- ・ 実習先の指導教員の許可なく、実習先の外へ幼児、児童・生徒を引率したり、呼び出したりしないこと。

【実習校に対して】

1. 実習時間

- ・ 実習の開始時間や終了時間は、実習先の勤務時間や勤務形態に合わせて行うこと。

2. 病気等による欠席

- ・ 無断欠席は絶対にしないこと。
- ・ 病気等により、やむを得ず欠席する場合は、速やかに実習先の指導教員に必ず連絡すること。

3. 物品等の使用

- ・ 実習先の許可を得て使用し、使用後は責任をもって後片付けをすること。
- ・ 実習先のパソコンを使用させてもらう場合は、ウィルス感染防止のため、勝手に私物のUSBメモリ等を接続しないこと。

4. 書類等の持ち出し

- ・ 実習先の許可を得ずに、書類や物品等を実習先の外に持ち出さないこと。

実習の基本計画（教育方法・生徒指導マネジメントコース）

1 実習の目的

本コースでは、高度な実践的学修を行い、次のような教員の育成を目的としている。

- ① 優れた実践的指導力を備え、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得る教員
- ② 学校教育の抱える諸問題を踏まえ、学校臨床においてリーダーシップを発揮できる教員
- ③ 教育専門職の高度な知識・技能に加え、実践研究の推進力・開発力を備えた教員
- ④ 新しい教育方法・教育内容を開発し、それらを常に評価し続ける力を備えた教員
- ⑤ 教職未経験の大学院生については、教育専門職に関する基礎的・基本的な資質・能力を備え、効果的に発揮できる教員

このような本コースの目的を達成するために、専門科目とともに実習科目を設定し、それらの一体的な関連指導によって、高度な実践的学修の実現をめざしている。

2 実習科目

実習科目は、以下の2科目である。科目名、単位数・時間数、実施時期は以下のとおりである。

実習科目	単位数（時間数）	配当年次
教育方法・生徒指導に関する 基盤実習	4 単位（120 時間）	1 年次または 2 年次
教育方法・生徒指導に関する 開発改善実習	6 単位（180 時間）	2 年次

実習の実施時期

実 習 科 目	実 施 時 期
教育方法・生徒指導に関する 基盤実習	1 年次に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 4 週間（集中 120 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校が遠方の場合は、週 5 日で 4 週間の実習を行うなど、実情等に応じて実施する。
教育方法・生徒指導に関する 開発改善実習	2 年次に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 6 週間（集中 180 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校が遠方の場合は、週 5 日で 5 週間の実習を行うなど、実情等に応じて実施する。

※ 実施時期については、上記を原則とするが、実習先の事情等に応じて柔軟に対応する。

3 実習校

現職教員の大学院生は、原則として、現任校において実習を行う。ただし、大学院生の派遣元が現任校と異なる学校等での実習を希望するなど、特に理由のある場合は、派遣元と本コースが協議して定める学校等で実習を行う。

現任校を持たない大学院生は、原則として連携協力校において実習を行う。

※実習校とは、学校教育法の定める学校とともに、適応指導教室等の教育関連施設等も含む。

4 科目別の実習内容、指導体制、評価方法等

教育方法・生徒指導に関する基盤実習

(実習目的)

専門科目の内容と関連した理論的知見や実践的方法・技術等の定着・向上を図り、教育方法・生徒指導に関する開発改善実習の実践的・研究的基盤を形成する。学校における教育活動の実際について、観察、指導補助、授業の実施などをとおして、実践的、体験的に学修する。具体的には、実習を通じて実習校において取り組まれている課題を把握するとともに、自己の実践研究課題の方向性を探る。

(実習内容)

実習実施前に、大学指導教員と実習校指導教員（メンター）と大学院生で個別実習計画を作成する。

実習内容は以下の通りである。

- (1) 実習校で、校長・教頭、主幹教諭、教諭等の監督の下、同僚教員の授業実践改善を中心とした取り組みに関する観察、分析、支援・相談、チーム・メンタリング等を実施する（必ずしも同一教科である必要はない）。
- (2) 実習校の教育実践研究に参加することにより、児童・生徒理解とともに学校現場での研究推進や実践開発等にかかわる基礎的・基本的な知識・技能等を習得する。
- (3) 実習校の教育活動に参加することにより、教育方法・生徒指導に関する開発改善実習に関連する児童生徒理解や授業開発の方法、実践研究の進め方等にかかわる基礎的な知識・技能等を習得する。
- (4) 実習校の学校行事に参加し、その計画、準備、実施、事後指導等について、体験的に学修する。

(指導計画・体制)

- (1) 実習計画の作成・実施にあたっては、「教育方法・生徒指導における実践研究」の大学指導教員（ゼミ担当教員）が助言・指導し、スーパーバイザーの役割も果たす。
- (2) 実習校・協力施設等に「実習校指導教員（メンター）」を依頼する。
- (3) 実習にあたっては、上記の大学指導教員と実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して、実習校の実情に即した実践研究がなされるよう、大学院生に助言・指導する。
- (4) 実習免除を受けた大学院生は、学生メンターとして、大学指導教員を補佐し、適宜実習を行う大学院生へのアドバイスをを行うとともに、実習中の課題レポート作成等の指導を補助する。

（実習の概要）

（1）個別計画の作成準備

- ① 実習における学習目標や課題，体験の内容等を明確化する。
- ② 実習校の現状を把握・理解する。

（2）実習時期・内容の決定

- ① 大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。
- ② 大学指導教員は実習校に出向き，実習時期・内容を確定する。

※実習校との打合せの日時，実習時期の決定については，実習校のスケジュールを最優先すること。

- ③ 実習開始の1か月前までに，大学院生と大学指導教員は，実習校に出向き，実習時期・内容を決定する。

（3）実習に関する諸資料について

① 実習計画 様式（1）－①

・大学院生は大学指導教員の指導を受け，様式（1）－①を作成する。

② 実習日誌・出席簿 様式（2）－①または様式（2）－③

・大学院生は，様式（2）－①または様式（2）－③の実習日誌を毎日記入する。

・実習校指導教員（メンター）等からの指導内容の記録は，その内容について実習校指導教員（メンター）等の確認を受け，指導・修正事項があれば，大学院生が赤で修正する。

・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は，教員の名前と指導内容を記録する。

・実習校指導教員（メンター）等のコメントの記載は，最終日のみとする。

・大学院生は，出席簿を作成し，出席日には必ず押印すること。

③ 評価票 様式（3）－①

・実習校指導教員（メンター）および大学指導教員は，様式（3）－①により，大学院生の実習の成果を評価する。

（4）実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は，次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

④ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

（評価方法）

実習校指導教員（メンター）による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ，最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S (90 点～100 点), A (80 点～89 点), B (70 点～79 点), C (60 点～69 点), F (59 点以下)とし, S から C までを合格, F を不合格とする。

評価項目については, 実習資料の様式の「教育方法・生徒指導に関する基盤実習 評価票」を参照。

教育方法・生徒指導に関する開発改善実習

(実習目的)

「教育方法・生徒指導に関する開発改善実習」(必修 6 単位)における研究内容と実習校の研究テーマや指導可能なテーマとのマッチングを行った上で, 実習校の研究推進等に貢献できるように実習校において教育実践を行い, 学校現場で教員に求められる授業実践・生徒指導実践を中核とした資質・能力を育成すること, また, 理論と研究法を獲得することを目的とする。また, 現職教員院生においては, 実習校の実践研究に参加することを通して, 学校現場での研究推進や実践開発等にかかわる資質・能力を育成することを目的に加える。

具体的には, 前年度(1 年次)のうちに目的・課題を明確化した上で実習計画の概要を作成し, 実習校と連携を図る。実習校との協議を経て, 大学指導教員及び実習校指導教員(メンター)の助言・指導のもと, 2 年次当初に教育方法・生徒指導に関する開発改善実習の実習計画を作成する。

(実習内容)

- (1) 実習校の教育実践研究や実践上の課題に関連したテーマ及び「教育方法・生徒指導に関する開発改善実習」における研究内容と関連付けた実習を行う。
- (2) 授業において学んだ理論的枠組を基盤に学校現場の現実に対応した実践研究を行うことにより, 教育方法・生徒指導マネジメントにおける実践的な力量を向上させる。
- (3) 現職教員院生は, (1)で示した内容を探究する具体的な研究活動の展開を通して, 研究課題や研究仮説の設定, 研究計画や研究推進の方略の策定, 研究成果のまとめ(発表), 研究の評価について, 実習を行う。

(指導計画・体制)

- (1) 実習計画の作成・実施にあたっては, 「教育方法・生徒指導における実践研究」の大学指導教員(ゼミ担当教員)が助言・指導し, スーパーバイザーの役割も果たす。
- (2) 実習校・協力施設等に「実習校指導教員(メンター)」を依頼する。
- (3) 実習にあたっては, 上記の大学指導教員と実習校指導教員(メンター)は緊密に連携して, 実習校の実情に即した実践研究がなされるよう, 学生に助言・指導する。

(実習の概要)

- (1) 個別計画の作成準備
 - ① 実習における学習目標や課題, 体験の内容等を明確化する。
 - ② 実習校の現状を把握・理解する。

(2) 実習時期・内容の決定

① 大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。

② 大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容を確定する。

※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。

③ 実習開始の1か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 実習に関する諸資料について

① 実習計画 様式(1)－①

・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式(1)－①を作成する。

② 実習日誌・出席簿 様式(2)－②または様式(2)－④

・大学院生は、様式(2)－②または様式(2)－④の実習日誌を毎日記入する。

・実習校指導教員（メンター）等からの指導内容の記録は、その内容について実習校指導教員（メンター）等の確認を受け、指導・修正事項があれば、大学院生が赤で修正する。

・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。

・実習校指導教員（メンター）等のコメントの記載は、最終日のみとする。

・大学院生は、出席簿を作成し、出席日には必ず押印すること。

③ 評価票 様式(3)－②

・実習校指導教員（メンター）および大学指導教員は、様式(3)－②により、大学院生の実習の成果を評価する。

(4) 実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員（メンター）による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、F(59点以下)とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、実習資料の様式の「教育方法・生徒指導に関する開発改善実習評価票」を参照。

その他

(実習資料の様式)

(1) 実習の個別計画表

【ストレート院生，現職院生 共通様式】

- ・教育方法・生徒指導に関する基盤実習 個別計画書……………様式（１）－①
- ・教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 個別計画書……………様式（１）－②

(2) 実習日誌

【ストレート院生用 様式】

- ・教育方法・生徒指導に関する基盤実習 実習日誌……………様式（２）－①
- ・教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 実習日誌……………様式（２）－②

【現職院生用 様式】

- ・教育方法・生徒指導に関する基盤実習 実習日誌……………様式（２）－③
- ・教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 実習日誌……………様式（２）－④

(3) 実習評価票

【ストレート院生，現職院生 共通様式】

- ・教育方法・生徒指導に関する基盤実習 評価票……………様式（３）－①
- ・教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 評価票……………様式（３）－②

教育方法・生徒指導に関する基盤実習 個別計画書

教育方法・生徒指導マネジメントコース

大学院生氏名		学籍番号	
大学院生連絡先			
実習期間	例：集中（一日実習 10 回），および毎週（半日実習 10 回）	集中：	年 月 日～ 月 日
		毎週：	年 月 日～ 月 日
実習校名 （住所・電話）		〒 TEL	
実習校指導教員 （メンター）		連絡先：	
大学指導教員		連絡先：	
実習校の概要	学校規模，教育目標，特色ある取組等		
実習における学習目標			
実習校の研究課題と各自の研究課題との関連性・共通性等			

実 習 の 実 施 計 画	集 中 (10 日 間)	第 1 日 (月 日)
		第 2 日 (月 日)
		第 3 日 (月 日)
		第 4 日 (月 日)
		第 5 日 (月 日)
		第 6 日 (月 日)
		第 7 日 (月 日)
		第 8 日 (月 日)
		第 9 日 (月 日)
		第 10 日 (月 日)
	半 日 × 9 回	第 1 回 (月 日)
		第 2 回 (月 日)
		第 3 回 (月 日)
		第 4 回 (月 日)
		第 5 回 (月 日)
		第 6 回 (月 日)
		第 7 回 (月 日)
		第 8 回 (月 日)
		第 9 回 (月 日)
		第 10 回 (月 日)

教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 個別計画書

教育方法・生徒指導マネジメントコース

大学院生氏名			学籍番号	
大学院生連絡先				
実 習 期 間	例：集中（一日 実習 10 回），お よび毎週（半日 実習 10 回）	集中：	年 月 日～	月 日
		毎週：	年 月 日～	月 日
実習校名 （住所・電話）		〒 TEL		
実習校指導教員 （メンター）		連絡先：		
大学指導教員		連絡先：		
実 習 校 の 概 要	学校規模，教 育目標，特色 ある取組等			
実習における学習 目標				
実習校の研究課題 と各自の研究課題 との関連性・共通 性等				

実 習 の 実 施 計 画	集中 (12 日間)	第 1 日 (月 日)
		第 2 日 (月 日)
		第 3 日 (月 日)
		第 4 日 (月 日)
		第 5 日 (月 日)
		第 6 日 (月 日)
		第 7 日 (月 日)
		第 8 日 (月 日)
		第 9 日 (月 日)
		第 10 日 (月 日)
		第 11 日 (月 日)
		第 12 日 (月 日)
	集中 (12 日間)	第 1 回 (月 日)
		第 2 回 (月 日)
		第 3 回 (月 日)
		第 4 回 (月 日)
		第 5 回 (月 日)
		第 6 回 (月 日)
		第 7 回 (月 日)
		第 8 回 (月 日)
		第 9 回 (月 日)
		第 10 回 (月 日)
		第 11 回 (月 日)
		第 12 回 (月 日)

教育方法・生徒指導に関する基盤実習 実習日誌（ストレート院生）

年 月 日（ 曜日）

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 主な出来事（気づき，感動，疑問）と，その考察・反省

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名 _____

（2）大学指導教員のコメント

氏名 _____

教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 実習日誌（ストレート院生）

年 月 日（ 曜日）

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 主な出来事（気づき，感動，疑問）と，その考察・反省

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名

（2）大学指導教員のコメント

氏名

教育方法・生徒指導に関する基盤実習 実習日誌（現職院生）

年 月 日（ 曜日）

1. 本日の研究課題

2. 本日の内容

時限等	時限ごとの課題等	内 容

3. 研究課題および課題に関連した教育活動に関する学び

（課題の進捗状況，実施における問題点，新たな発見などを記入する。）

4. 実習校指導教員（メンター）からの助言等（大学院生が記録する。）

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名

（2）大学指導教員のコメント

氏名

教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 実習日誌（現職院生）

年 月 日（ 曜日）

1. 本日の研究課題

2. 本日の内容

時限等	時限ごとの課題等	内 容

3. 研究課題および課題に関連した教育活動に関する学び

（課題の進捗状況，実施における問題点，新たな発見などを記入する。）

4. 実習校指導教員（メンター）からの助言等（大学院生が記録する。）

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名

（2）大学指導教員のコメント

氏名

教育方法・生徒指導に関する基盤実習 評価票

兵庫教育大学大学院

教育方法・生徒指導マネジメントコース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	／10	／10
2	実習計画	／10	／10
3	実習日誌	／10	／10
4	実習校への貢献	／10	／10
5	研究計画及び実習内容	／10	
	実習内容と成果報告書との関連		／10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点, A : 89～80点, B : 79～70点, C : 69～60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

教育方法・生徒指導に関する開発改善実習 評価票

兵庫教育大学大学院

教育方法・生徒指導マネジメントコース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	／10	／10
2	実習計画	／10	／10
3	実習日誌	／10	／10
4	実習校への貢献	／10	／10
5	研究計画及び実習内容	／10	
	実習内容と成果報告書との関連		／10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点, A : 89～80点, B : 79～70点, C : 69～60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

教育方法・生徒指導マネジメントコースにおけるカリキュラム配置モデル

年次	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年 次	共通基礎科目 ・専門科目	共通基礎科目（１３単位）						共通基礎科目（５単位）						
		専門科目						専門科目						
		課題研究科目（４単位：通年）												
	実習科目	現職					I	集中 4W (120H)	・実務経験３年以上の者は免除することができる。 (９月～３月の間で４週間実施)					I
ストレイト等						I	集中 4W (120H)	・実務経験３年以上の者は免除することができる。 (９月～３月の間で４週間実施)					I	集中 4W (120H)
2 年 次	専門科目	専門科目						専門科目						
		課題研究科目（４単位：通年）												
	実習科目	現職		[パターン②] II	集中 3W (90H)				II	集中 6W (180H)	実習の時期は現任校又は連携協力校と協議して決定する。協議の結果、実習の時期が変更となる可能性がある。 〔実施例〕 パターン①を原則とするが、事情等によりパターン②のように実習期間を分けて実施することもある。			
		ストレイト等		[パターン②] I	集中 4W (120H)	教員採用試験			II	集中 6W (180H)	実習の時期は連携協力校と協議して決定する。協議の結果、実習の時期が変更となる可能性がある。			